

農業技術

リズム

ジャガイモそうか病は芋の表面にかさぶた状の病斑を生じる病害です。本病が多発すると、芋の外観を著しく損ない、販売可能な量が減少するため、県内で最も重要な病害の一つです。

ジャガイモそうか病の病原体は、土壌中に生息するストレプトマイセス属の放線菌で、発生した圃場（ほじょう）では土壌が汚染されるため、徐々にまん延します。このため、産地では土壌消毒などの防除対策が行われていますが、完全に防除することは困難です。本病は種芋に付着して圃場に持ち込まれる（種芋伝染）ため、種芋消毒により圃場への持ち込みを防ぐことが重要な防除対策となりま

す。これまでに、効果の高い薬剤での種芋消毒で種芋由来の発病が大幅に減少することが分かっ

ジャガイモの種芋消毒

効果高い薬剤追加 そうか病の発症減

ていますが、近年の試験結果から、常用される薬剤に加えオキシテトラサイクリン、ストレプトマイシン、銅水和剤の効果が

（図）。本病未発生の圃場や土壌薫蒸剤による土壌消毒を行った圃場では、必ずこれらの薬剤を用いて種芋消毒をしてください。

（農産園芸研究部門馬鈴薯研究室主任研究員 菅康弘）

図 ジャガイモそうか病汚染種芋に対する各種薬剤の種芋消毒効果（2015年春作試験）

